

## オルガノン要約( § 216～230)

§ 216 症状が感情・精神的な方面に移行すると、ほとんど身体症状は消失する。  
([粗野なもの＝身体]→[精妙な器官＝精神]への転移・誘導)

§ 217 上記のような場合、レメディの類似性は身体症状だけでなく精神症状のより正確な特性をとらえる必要がある。

§ 218 精神・感情的な症状に移行する前の身体的症状を正確に知る必要がある。

§ 219 以前にあった身体症状はよく観察すると痕跡として残っている。それは精神症状が停滞した期間に現れることがある。

§ 220 第三者による精神・感情の正確な観察が加われば、より正しいレメディ(抗プソラレメディなど)を選ぶことができる。

§ 221 突然、精神・感情的症状を発症した場合、原因はプソラであっても抗プソラのレメディで回復させることはできない。

この場合は「今の段階で示唆されたレメディ※」を用いなければならない。そうすれば差し当たりプソラは以前のように潜伏していた状態にもどるので、ほとんど回復するだろう。(※ Acon.Bell.Stram.Hyos.Merc.など)

§ 222 しかしこれを治癒と見なしてはならない。もし以前のような精神的・感情的症状が起きやすくなった場合は、即刻、抗プソラのレメディを、場合によっては抗シフィリスのレメディを用いるべきである。

§ 223 もし抗プソラの治療がなされなかった場合、症状はいっそう激しくなり、治癒はますます難しくなる。

§ 224 精神・感情の病気が発症し始める時点において、  
A)理解を示し、好意的に励まし慰めて好転するなら、その精神の症状の原因は教育の失敗・悪習・迷信・無知などである。  
B)悪化するなら、身体の病気から生じたものである。

§ 225 病気は「身体→感情」だけではなく「感情→身体」へ進行するものもある。

§ 226 心情によって生み出される感情の病気は身体症状を表出していなければ信頼し、励まし、忠告すること等で急速に改善する。

§ 227 とはいえ、抗プソラ治療をしないと再び発症するだろう。

§ 228 精神・感情の疾患には、以下のことが必要である。

- A)規則正しい生活。
- B)患者の状態にふさわしい態度。
- C)身内、医師による心理的働きかけ。
- D)物を壊したり傷つけたりしても責めないこと。

また、レメディはひそかに飲ませることもできる。

(注)しかし多くの精神病院で、医師たちはホメオパシーを使わず、冷酷に投打・拷問を加えたりなど残酷な仕打ちをしている。

§ 229 精神・感情の病気の人に対しては、その人の理性を信頼しているように振舞わなければならない。そして感情をかき乱すものを遠ざける。医者が身体を(ホメオパシーによって)治癒して始めてその人に安らぎと快適さが見られる。

§ 230 精神・感情の病気には、完全とも言えるほどに適合したレメディが必要であり、ホメオパシーでしか治癒は出来ない。そしてそれはできる限り極微量の投与量でよい。